

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第一学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に対する関心は全体的に高いが、促音や長音などを正確に書き表すことができない児童が見られる。</li> <li>助詞の「は・を・へ」を適切に使えていない児童もいる。</li> <li>平仮名と片仮名の使い分けに、課題がある児童がいる。</li> <li>音読の際、言葉のまとまりではなく、一音一音ずつ読み上げてしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題の問題場面をイメージできず、式に表すことに課題がある児童がいる。</li> <li>合わせる、違いを比べるこのの意味を理解し、考えたり、説明できたりすることに課題がある児童がいる。</li> <li>10までの数の加法・減法では、計算する際に指やブロックを使う児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな体験や活動は意欲的に行う。しかし自己の気づきに結びつかない児童が多い。</li> <li>気付いたことを言語化することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材と実生活を切り離して考えてしまう児童が多い。</li> <li>道徳的な価値理解を深めることに課題がある。</li> <li>自分の生活を振り返ること（一般化）に課題がある。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>促音や長音、助詞など、または平仮名と片仮名の使い分けに関して、練習プリントを朝学習の時間で解いたり、言葉や文を書く学習をしたりする中で、正しい使い方を指導する。</li> <li>学級の中で、音読の時間を確保し、練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物による操作活動をさせたり、問題場面の絵を描かせたりして、問題場면을具体的に理解させる。</li> <li>具体物の操作活動や場面を絵に表す活動などを取り入れ、どのような操作するかをペアで確認したり、全体で共有したりする。</li> <li>児童一人一人のつまづきに合わせて、具体物や半具体物を使用し、10の合成と分解を繰り返し練習していく。数のまとまりを意識させるために、百玉そろばんを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動後の表現の際、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。観察カードの記入等で自分の気づきを意識させる。</li> <li>気づきの視点を与えた上で、気付いたことをどう言語化するのか、手本を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を自分事として捉えられるようにするために、発問を工夫する。</li> <li>導入で内容項目や主題を提示し、本時で学習する道徳的価値への意識付けをする。</li> <li>ワークシートや最後の発問を工夫し、教材を生かして自分の生活への振り返りを行う。</li> </ul>
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に苦手意識を持っている児童がいる。</li> <li>走る、投げるといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍の流れを感じ取って、リズム打ちや、身体表現をすることが難しい児童が数名いる。</li> <li>曲想を感じ取って、自分を表現することへの苦手意識の強い児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や作品を作るのが好きな子は多いが、表現のしかたや、用具の扱い方に課題がある児童がいる。</li> </ul>	
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な動きを取り入れた体づくり運動（サーキット・縄跳び・持久走など）を取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。</li> <li>授業中だけでなく、休み時間も使って幅広い運動・遊びに取り組みせ、できる活動を増やして自信につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム譜のやさしいところから、順に個別指導を繰り返してしていくことで、拍感を感じとれるようにしていく。</li> <li>全体から個へ、個から全体へ、身体表現する場面を繰り返しやっていきながら、苦手意識を軽くさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行い、感覚や技能を働かせる活動を通して材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。</li> <li>どのように仕上げればよいのか手順を示したり、題材の中に複数の技法を取り入れたりすることで定着につなげていく。</li> </ul>		

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第2学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話したい気持ちはあるが、言葉が足りなかったり、不必要に長くなったりしてしまう。相手意識をもって相手に正しく伝えることに課題がある。</li> <li>・文章を書く意欲や技能について個人差がある。特に、順序立てて分かりやすく文章を書くことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足し算の繰り上がりや引き算の繰り下がりの計算について習熟に差がある。</li> <li>・既習事項を活用して答えを導き出す問題解決の力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や活動に意欲的に取り組んでいるが、気付きの視点や表現力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の内容と自分の生活を関連付けて考えを深めることに課題がある。</li> <li>・道徳的な価値理解を深めることに課題がある。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方、聞き方のポイントを指導し、定着を図る。スピーチの場を設けて、相手に伝わるかの視点を持ち、分かりやすい文づくりを指導する。簡単な文章を作成する機会を設け、書くことに慣れさせる。</li> <li>・「はじめ」「中」「おわり」を意識した文章やつなぎ言葉の活用など、書き方のパターンを使って練習する機会を設ける。日記指導を通して、書くことに慣れるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐんぐんタイムなどで基礎的な計算問題に取り組み、計算力の習熟及び向上を図る。</li> <li>・問題解決学習を進める際には、具体的な手立てや方法（言葉や文章、式、絵や図、グラフや表など）を例示し、徐々に問題解決を図る方法を知る機会をつくっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の前には「大きさ・長さ・形・匂い・手ざわり」など視点を与え、観察カード等に具体的に表現することができるようにする。</li> <li>・「比べること」や「例えること」ができるように、活動前に手本を示し、焦点化や言語化へつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の生活場面を想起させるなど、自分の問題として捉えられるようにする。また、発問やワークシートを工夫し、教材の内容と自分自身のことを関連付けて考えられるようにする。</li> <li>・導入で内容項目や主題を提示し、学習する道徳的価値への意識付けを行う。</li> </ul>
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が好きな児童が多い反面、運動することに対して苦手意識のある児童がいる。</li> <li>・基本的な動き（コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・単縄跳び・前回り下り・逆上がり・後転・けのびなど）や体力面に課題がある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の時の積み重ねにより、多くの児童の歌ったり演奏したりする表現力が高まっているが、技能面で差も出てきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に意欲的な児童が多いが、材料や用具の基本的な扱い方について確認し、十分に慣れる必要がある。</li> <li>・発想や構想に支援が必要な児童もいる。</li> </ul>	
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な動きを取り入れた体づくり運動（サーキット・縄跳び・持久走など）を帯の時間を設けて取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。</li> <li>・休み時間や放課後などにも運動に取り組み、家庭の協力も仰ぎながら運動の日常化を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、全体の中で音楽を楽しむ時間を多く共有し、個別指導も取り入れながら授業の工夫をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行うとともに、感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。</li> <li>・活動の予告や児童の興味関心に合わせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。</li> </ul>	

		国語	社会	算数	理科	体育
第三学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語において、漢字の書き取りに課題がある。漢字小テストでは全体的に点数が取れる子が多いものの、まとめのテストになると個人差が大きくなる。また、学習した漢字を日常生活の中で適切に使うことにも課題がある。</li> <li>・書くことにおいて個人差が大きく、伝えたいことを順序立てて文章に書き表すことに課題がある。</li> <li>・話すことにおいて、自分の思いを相手に分かりやすく伝えることに課題がある。また、話し合いにおいて、自分の意見を発表したり、友達の意見から自分の見方や考え方を広げて、学びを調整していくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から情報を正しく取り出したり、取り出した情報を比較・関連付けたりすることが難しい。</li> <li>・地図記号や八方位等の知識が定着しきれていないため、地図を読むことが難しい児童も少なくない。</li> <li>・生活経験と結び付けながら思考することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の際、自分の考えをノートに書き出せなかったり、まとめられなかったりする児童がいる。</li> <li>・時刻と時間では、問題文の読み取りができず、間違えた回答をしている児童が見られる。</li> <li>・三桁のたし算とひき算では、全体指導のときに解けた問題も、自力解決になると繰り上がりや繰り下がりでミスをする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多いが、観察カードに自分の考えを適切に表現できない児童が見られる。</li> <li>・知識を問うテストになると、何を問われているのかを理解できない児童やどのように回答すべきなのかの理解が難しい児童が見られる。</li> <li>・学習した知識・技能を生活経験と結び付けて考える力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の運動は一人一人がよくがんばるが、グループ競技になると、得意な児童だけが活躍してしまうことがある。</li> <li>・勝ち負けにこだわりすぎて失敗してしまった子を責めすぎてしまう。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の書き取り練習だけでなく、ひらがなで書かれた文章を漢字で書き直す等、生活の中で生かせる漢字練習に取り組んでいく。</li> <li>・例文を示したり、よく書けている文章を真似して書かせたり、つなぎ言葉を選択するなど、個の課題に合わせた手立てを行う。</li> <li>・ペアや小集団での話し合いの場を設け、安心して自分の意見を言えるようにする。</li> <li>・友達の意見を聞く前と聞いた後で、考えたことの変化を書かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を使い、府中市以外の地図や写真から必要な事柄を読み取る時間を増やす。</li> <li>・比較・関連付けをする時には、「似ているところ」「違うところ」など相違点をはっきりさせる。</li> <li>・写真の提示や、生活科の経験を思い出させることで、自分の経験と結び付けて主体的に考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使ったり、計算の仕方や大事な言葉等を単元を通して黒板に掲示したりすることで、既習事項を思い出させ、考えるヒントを与えるようにする。</li> <li>・習熟度別での指導を生かし、コースに応じて数値を変更したり、計算の順序を確かめたりして指導する。</li> <li>・文章題では、使う数字や聞かれていることを確認してから問題に取り組むことを年間通して指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の際に具体的な観察の観点を提示し観察するようにさせる。</li> <li>・授業の中で、多くの問いに答える学習をしたり、学習末テストの振り返りを丁寧に行ったりする。</li> <li>・他教科においても、理科で学習した内容を生かした学びが行えるように、関連した学習内容を設定し、児童が主体的に知識と生活経験を結び付けて考え、それを表現できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで取り組む競技を多く取り入れ、チーム内での役割分担や作戦を練る時間を設ける。</li> <li>・児童間で、互いに、どのような役割分担をすれば、チーム全体が活気づいて、その競技の内容をレベルアップできるのかを主体的に考えるような発問をしたり、場を設定したりする。</li> </ul>
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽を再現する活動には慣れてきた。しかしながら、自分達の演奏を言語化して学びを深める活動を継続できていない。</li> <li>・演奏ができるように粘り強く練習することに対して、個別の支援が必要な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に意欲的で粘り強く表現活動に取り組めるが、自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。</li> <li>・発想構想の力と創造的な技能について、個別の支援が必要な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えに共感したり違いを認めたりすることができるが、道徳的な価値理解を深めることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の前で発表したり、ALTの発音を真似して声に出して学習したりすることに抵抗がある児童がいる。</li> </ul>	
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどと関連付けながら考える活動を継続的にやっていく。</li> <li>・個別の指導も充実できるよう、授業の流れを単純化するほか、担任教諭との連携をより強めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢に合わせた造形的な言葉を提示し、言語化しやすくする。</li> <li>・支援が必要な児童に対して、個別で具体的な指示を出し、スムーズに取り組めるようにする。</li> <li>・活動の途中に鑑賞の時間を設定し、お互いの良いところを伝え合うなどして、発想構想を広げることにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が考えることができるような発問をする。</li> <li>・友達と話し合う時間を設け、多様な意見に触れさせる機会をつくる。タブレットを使って、多くの友達の考えを共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの発音練習やグループでのやり取りを多く取り入れたり、ゲームをしたりするなど、児童自らが外国語を多く発するような機会をつくっていく。</li> </ul>		

		国語	社会	算数	理科	体育
第四学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む能力において、説明文に関しては、その内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことは概ねできる。しかし、物語文に関しては、文章中の表現から登場人物の心情を読み取ったり、想像したりすることに課題がある。</li> <li>・漢字の学習においては、短期的には定着しており、小テストなどではよい結果が得られるが、文章の中で正しく漢字を使うことができない。</li> <li>・自分の考えや思いを言葉で伝えたり、文章で表現することに課題がある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県の位置や名前、それぞれの特色を正確に捉えられていない。</li> <li>・資料等から、必要なことを読み取ろうとしたり、興味をもって見ようとしたりする児童が多いが、読み取ったことを文章に表したり、言葉で表現して伝えたりすることができない。</li> <li>・資料等から情報を集めて、新聞にまとめることはできるが、まとめたことを基に、その学びを自分のこれからの生活にどう生かしていくかを考えることができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・億や兆までの数を読んだり書いたりすることに課題が見られる児童が多い。</li> <li>・コンパスや定規をうまく使えず、正確に作図できない児童が多い。</li> <li>・桁数の多いわり算の筆算ができない児童が多い。</li> <li>・問題の多様な解き方を考えて、表現することを苦手としている児童が多い。</li> <li>・全体指導では解けていた問題も、自力解決になると九九の間違いや繰り下がりのあるひき算のミスが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験を基にして予想したり、見通しをもって実験を行ったりすることに課題がある。</li> <li>・実験結果から考察し、結論を導き出す力が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人による運動量、練習量に差がある。</li> <li>・技のポイントを意識して練習に取り組むことのできる児童が少ない。</li> <li>・授業にメリハリをもって取り組める児童が少ない。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文の指導においては文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。また、読書活動に力を入れ、様々な文章に触れる機会を多く設け、自分から興味をもって、登場人物の気持ちを想像したり、文章表現から状況を把握したりする経験を増やす。</li> <li>・日記、ノートなどで文章を書く際には、既習の漢字を使うことを繰り返し指導する。</li> <li>・小集団での話し合い活動を授業の中で設定し、話すことに慣れさせる。また、友達の書いた文章に触れる機会を多く設けて、互いの思いを共有する時間をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳を活用し、都道府県の名前だけでなく特産品や名所などにも触れ、学ぶ意欲を喚起する。また、国語の漢字の学習時間とも関連させて学ぶ機会を設定していく。</li> <li>・日々の授業の中で、写真やグラフなどの興味をもって取り組める資料を多く活用し、どのように読み取るか、どのように表現するといったかを学習させて、それを文章にする練習をする。</li> <li>・児童同士の新聞を読み合い、何を知り、それを今後どう生かしていきたいのかを考え、まとめる時間を多く設定していく。また、社会科で学んだことを国語の授業等で文章に書く練習をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4桁の区切りのよさを理解させて、家庭学習でも繰り返し取り組めるように復習を行う。</li> <li>・定規やコンパスに慣れるように、楽しく繰り返し取り組める作図の学習を家庭学習の課題として出す。</li> <li>・授業の始めに、わり算につながる、九九の復習や百ます計算などを繰り返し行う。また、多様なタイプの筆算の問題に取り組む機会を設定する。</li> <li>・問題の解き方の表現の仕方（図、絵、文章、数直線など）を教えて、児童同士の考えを共有し合い、それぞれ自分に合った方法で表現できるようにする。</li> <li>・どこまで全体で確認し、どこから自力で解くかを問題の難しさや児童の理解の程度に合わせて繰り返し行い、自力解決に結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験をする前に、自分なりの予想を立ててから取り組み、予想を確かめるために、どんな実験が必要なのか小グループで話し合い、考えていく時間をもつ。</li> <li>・話型や問題解決の流れを掲示し、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで運動したくなるような場の設定をする。</li> <li>・技のコツが理解できるよう、ビッグパッドを活用し、映像で手本を繰り返し示す。</li> <li>・授業前に意識するポイントを確認し、ノートに振り返りを書くようにする。</li> </ul>
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を表現・鑑賞することは好きであるが、意欲が保持できず諦めてしまう傾向があり、学習題材ごとに技能の差が大きくなっている。</li> <li>・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。そのため、自分らしく表現・鑑賞する力が十分についていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として意欲的に表現活動に取り組めるが、次に何をすればいいか、もっと良くするにはどうしたらいいかなど、自分で考えて活動することに課題がある。</li> <li>・粘り強く取り組む姿勢や、創造的技術について差が大きく、個別の支援が必要な児童いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を自分事として捉えられず、ワークシートに自分の考えが書けない児童がいる。人物の気持ちを読み取って考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら取り組んでいるが、定着に課題が見られる。</li> <li>・自信がなく、発表することに抵抗がある児童が多い。</li> </ul>	
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への意欲を継続し、知識・技能の習得ができるよう、スライドなどの視覚的な資料の活用を増やしていく。</li> <li>・音や音楽から気付いたことと感じたことを関連付けられる活動をより充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書を活用したりできたことを認めたりしながら、自分でやるべきことを考える習慣を身に付けていく。</li> <li>・粘り強く取り組むことを十分に評価し、また活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、意欲を高める。</li> <li>・支援が必要な児童には、個別に具体的な指示を出し、スムーズに取り組む始められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技や動作化を通し、より自分事として捉えて考えられるようにする。また似通った児童の身近な経験を聞いたり、こちらから例示したりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツやゲームを通して、会話に触れる機会を増やしていく。</li> <li>・ALTの発音、デジタル教材を活用して聞くこと、真似して発音すること、一単元で学んだ会話の受け答えを活用したアクティビティに取り組む等、段階的な学習活動を考え繰り返し行う。</li> </ul>	

		国語	社会	算数	理科	体育
第五学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。小テストも学期末のまとめのテストも、点数も低く定着できていない児童が多い。</li> <li>・読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、要旨を読みとることに課題がある。</li> <li>・書く能力においては、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことに課題がある。また、原稿用紙の正しい書き方が身に付いていない児童も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の地域の様子や日本の国土、気候に対して、イメージをもって学習することが難しく、知識・理解の習得率が低い。都道府県を覚えていない児童が多い。</li> <li>・教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくには課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位置あたりの大きさでは、二つの異なる種類の数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べることに課題が見られる児童が多い。</li> <li>・わり算の習熟に課題が見られる児童が多い。小数点の動かし方や倍の考え方が理解できていない児童が多く、小数点の位置による間違いと単純な計算による間違いも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方を理解しているものの、実際に器具を使う際、誤った使い方をしてしまうことがある。</li> <li>・条件制御して実験方法を考えることができる。しかし、実験結果と条件を結び付けて考え、考察することに課題がある。</li> <li>・学習を通して何ができるようになったのか、意識していない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識をもって運動に取り組むという意識の定着が十分でない児童が見られる。</li> <li>・運動能力の個人差が大きい。また、できないことに対して、自己の最善を尽くして運動することに課題がある児童もいる。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中で繰り返し指導していく。音読練習を適宜取り入れ、漢字と音を一致させていくように指導していく。</li> <li>・物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。</li> <li>・文章を書く際には、構成メモを作成し、書きたいことの内容を明確にしたり、書き出しやまとめ方を考えたりしてから書くように指導していく。原稿用紙の使い方については、基本から丁寧に繰り返し指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識や技能的なことは繰り返し学習していないと定着しない傾向がある。授業の導入では前時の振り返りを行い定着を図る。</li> <li>・授業の中で、一つの資料から読み取っていただくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。</li> <li>・ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道のり、速さ、時間の関係性や、時速、分速、秒速の意味を繰り返し確認し、反復練習を行う。単元を通じて、計算の仕方や数量の関係性、大事な言葉を黒板に掲示し、考えるヒントにする。</li> <li>・どこまで全体指導でやるか、どこから自力で解くかの流れを、問題の内容や児童の理解の程度により繰り返し行い、徐々に自力解決で解ける範囲を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。</li> <li>・課題→予想→結果→考察→まとめの流れをパターン化させ、条件を意識して実験結果を整理させるとともに、課題に着目させて考察することに慣れさせていく。</li> <li>・単元の終わりに単元始めの予想に対する振り返りを行い、できるようになったことを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを通して、運動のポイントや向上のためのポイントを意識させる。また、振り返りを書かせることで、課題意識の向上を図る。</li> <li>・児童一人一人が自分の力に合っためあてをしっかりともち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。</li> </ul>
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。そのため、自分らしく表現・鑑賞する力が十分についていない。</li> <li>・音や音楽を通して他者と関わったり協働する力をつけてきているが、多様性を受け入れる力については理解をしているものの実践的でなく、相手によって態度や言葉が相応でなかったり、それによって表現を諦めてしまったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に意欲的で粘り強く表現活動に取り組めるが、自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。</li> <li>・学習に向かう力と創造的な技能について、個別の支援が必要な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に対する興味・関心に、個人差（男女差）を感じる。</li> <li>・簡単な手縫いの技能に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を自分事として捉えて考え、道徳的価値への理解を深めることが十分でない。</li> <li>・物事を多面的、多角的に考える力に課題がある。</li> <li>・多様な考え方や見方があることへの気づきが十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で発話することに積極的ではあるが、コミュニケーションをとることや分からない単語や文章になると、消極的になってしまう。</li> <li>・習熟に個人差がある。アルファベットの文字を正確に書いたり言ったりすることに課題がある児童がいる。</li> </ul>
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽から気付いたことと感じたことを関連付ける活動をより充実させていく。</li> <li>・音や音楽に関わる態度の充実に向け、異質なものを面白く捉えられるよう、活動や声掛けを見直ししていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に合わせた造形的な言葉を提示し、言語化しやすくする。</li> <li>・支援が必要な児童に対して、個別で具体的な指示を出し、スムーズに取り組めるようにする。</li> <li>・活動の途中で鑑賞の時間を設定し、お互いの良いところを伝え合うなどして、学びの意欲や技能の獲得につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践カードなどを用いて、自分と家族などのかかわりを考えて、実践する喜びを味わわせる。</li> <li>・グループ学習を用いて、互いに教え合うことで、互いの技能を高め合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値への理解が深められるよう、教材提示の方法や自我関与が深まるような発問を工夫する。</li> <li>・物事は様々な面から見られることを取り上げ、児童が多面的、多角的に考えることができるようにする。</li> <li>・友達と話し合う時間を設け、多様な意見に触れさせる機会をつくる。タブレットを使って、多くの友達の考えを共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も繰り返して練習し、自信をもって積極的にコミュニケーションを図れるようにする。</li> <li>・アルファベットへの理解を深めるため、カルタなどゲームを取り入れるなど、楽しみながら覚えさせる。また、ワークシートに英単語や文章を書かせる際、英語の罫線を使用し、正しく書けるようにする。</li> </ul>	

		国語	社会	算数	理科	体育
第六学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語についての知識・技能においては、概ね定着しているようで、定期的に実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られる。一方、学習した漢字を文中で適切に使用することにも課題が見られる。</li> <li>・序論、本論、結論といった文章全体の構成を考へることはできているが、目的や意図に応じた分かりやすい文章を書くことには課題が見られる。また、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことにも課題がある。</li> <li>・説明文や物語文の読み取りでは、内容を把握し、知識や経験と結び付けて読むことはできてきているが、文章全体の構成を捉え、要旨や筆者の主張を把握して読み、自分の考えを表現することには課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治の仕組みや日本国憲法の理念などについての知識・技能の取得率は高い。一方で、抽象的かつ生活と結び付けにくい内容であるため、問題に対し、自分なりの考えをまとめたり、友達と考えから自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。</li> <li>・教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくことには課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数という数の性質への理解に課題があるため、分数の乗法、除法では、既習事項と関連させて問題を解決することに難しさを感じる児童が多数見られた。また、分数÷分数の立式場面では、「÷分数」の理解に課題が見られた。</li> <li>・文章問題では、問題場面をイメージし、分かっていることと聞かれていることを整理して、正しい式を立てることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。</li> <li>・実験の結果から必要な情報を取り出したリ、比較・関連付けて読み取ったりすることはできるが、実験結果から数値や実験の様子などの根拠を明らかにしながら考察、推論することには課題がある。</li> <li>・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動をすることは好きであるが、できないとすぐに諦めてしまう傾向がある。</li> <li>・作戦を立てて、ゲームに取り組む力に課題がある。作戦を実行に移す力が弱い。</li> <li>・運動能力の個人差が大きい。</li> </ul>
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文の中で漢字を活用できるように、作文指導の中で繰り返し指導していく。音読練習を適宜取り入れ、漢字と音を一致させていくように指導していく。</li> <li>・説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。</li> <li>・文章を書く際には、構成メモを作成し、書きたいことの中心を明確にし、書き出しやまとめ方を考えたりしてから書くように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象を政治に関わる視点に着目して捉え、国民の生活との関連付けを考へることで、学習を深めることができるようにする。</li> <li>・授業の中で、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。</li> <li>・ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度によっては、小数点以下の数が多かったり、13/76のようにイメージしづらい分数の計算は、一度操作しやすい桁数の少ない簡単な数に置き換え、計算の方法や意味を確かめることで、小数や分数の量感や意味をしっかりと身に付けることができるようにする。</li> <li>・文章問題を扱う際は、何を求める問題なのかを十分に読み取らせる。また、数直線図や4マス関係表をかくことで、数の関係性を捉えることができ、式が立てやすくなることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について教科書やプリントを使って共通理解する時間を確保する。</li> <li>・実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。また、タブレットを活用し、実験結果を共有できるようにする。</li> <li>・観察結果や実験結果から自分の考えをまとめる活動を毎時間行い、まだ分からないことと分かっていることが何が考へられるようにし、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>・動物のからだのはたらきの学習を始め、新しく出てきた言葉の定着率をあげるため、プリント学習やeライブラリを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動機付けを工夫し、スモールステップで課題に取り組ませる。</li> <li>・ゲームにおいて、効果的な動き方を教えたり、考えさせたりして、チームでこれらを共有することは、結果につながることを感じさせる。これを繰り返すことで、一人一人が主体的に運動に取り組めるようにする。</li> <li>・体育ノートを活用し、児童一人一人が自分の力に合ったためあてをしっかりともち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。</li> </ul>
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考へることに課題がある。そのため、自分らしく表現・鑑賞する力が十分についていない。</li> <li>・音楽表現について、音や音楽を再現する知識・技能はついてきているが、そこからよりよい物を目指そうとする意欲や力が弱く、表現が広がらない場面がよくある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形に対する興味関心はあるが、最後まで粘り強く取り組むといった目標達成に対する意欲が低い。</li> <li>・ワークシートなどを活用して、思い付いた材料や方法を書き表すことで発想を深めたり、どのように表すか構想を練ったりする力に差がある。</li> <li>・鑑賞の力について、色・形・材料・方法がどのようなイメージと結びついているのかについて、考察することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に対する興味・関心はあるが、技能に個人差があり、できなくて意欲が下がってしまい、それが作品に表れてしまう。</li> <li>・小グループでの活動のとき、できる人がやってしまい、全員が主体的に取り組めないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を自分事として捉えて考へ、道徳的価値への理解を深めることが十分でない。</li> <li>・物事を多面的、多角的に考へる力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な単語、センテンスを理解している児童もいれば、アルファベットの理解をままならない児童がいるなど、習熟度に差がある。また、文字と音声不一致のため、センテンスを示しても読み取ることができず、片仮名英語になってしまう児童が多い。</li> <li>・ライティングにおいて、四線の中に正しくアルファベットを書くことや、単語と単語の間にスペースを空けるなど、基礎的なことが身に付いていない児童が多い。</li> <li>・アクティビティ（活動）で使用する文章（センテンス）の理解が低いことが、発話への抵抗感を生み、コミュニケーション活動への参加態度にも影響している。</li> </ul>
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽から気付いたこと感じたことを関連付ける活動をより充実させていく。</li> <li>・音楽表現に粘り強く取り組む力が付けられるよう、主体的に試行錯誤することを楽しむ場の設定を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、事前から発想や構想を促す。また、スモールステップになるようワークシートを作成することで、考へを深められるようにするだけでなく、小さな目標達成を味わわせながら題材の目標達成にたどり着きやすいようにする。</li> <li>・鑑賞をする際には、鑑賞のポイントやキーワードをおさえたり、文形を用いることで、言葉で表現しやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習において、互いに教え合うというスタンスを取らせることで、互いの技能を高め合わせる。</li> <li>・実践カードなどを用いて、自分とのかわり方を考へさせて、実践する喜びを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に考へ、道徳的価値への理解が深められるよう、タブレットで意思表示をしたり、考へを共有したりできるようにする。</li> <li>・普段の生活場面を想起させるなど、自分の問題として捉えられるようにする。また、自己の生き方とつながって考へる機会を設ける。</li> <li>・立場が違ふと考へ方が変わることや物事にはいろいろな見方があることがより分かりやすくなるように、話し合う場面で立ち場を明らかにし、役割演技や討論などを取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャッツやゲーム、歌等を積極的に活用し、ALTや友達と関わる活動を取り入れる。さらに、外国の文化と日本の文化との違いや共通点等を考へさせることで、他国との違いや良さを感じさせる。</li> <li>・単語や会話の習得に力を入れ、アルファベット文字指導もフォニックスを活用して行っていく。</li> <li>・授業後にふり返りを行い、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。</li> <li>・ALTやデジタルコンテンツの音声を繰り返し聞かせ、音声のインプットに重点を置いた指導をする。またアクティビティでは、日本語で話すことを否定せず、英語を無理に発話させないことで、積極的に参加ができるように促す。</li> </ul>	